

# 彙報

○平成二十六年年度講義題目

〈大学院〉

日本文学研究の方法 (1) (2)

塩村教授・阿部教授

西鶴研究 (1) (2)

大井田准教授

王朝日記文学の諸問題

塩村教授

平安朝和漢比較文学研究

大井田准教授

明治期の文学作品と出版

大井田准教授

中世の和歌と連歌

甘露純規講師 (非)

梁塵秘抄の世界

伊藤伸江講師 (非)

徒然草研究 (1) (2)

植木朝子講師 (非)

中世人の連想の世界 (1) (2)

塩村教授

源氏物語演習 (1) (2)

塩村教授

王朝文学演習 (1) (2)

大井田准教授

日本書誌学研究 (1) (2)

大井田准教授

日本語史の研究

塩村教授

万葉集を読む

釘貫教授

『雅言集覧』を読む

釘貫教授

『天草版平家物語』研究 A・B

釘貫教授

宮地准教授

日本語研究上の諸問題 A・B

釘貫教授・齋藤教授

日本語学概論 A・B

宮地准教授

日本語文法研究の諸問題 A・B

宮地准教授

日本語文法史

矢島正浩講師 (非)

日本語音節構造史研究

肥爪周二講師 (非)

日本精神史

阿部教授

宗教テクスト学講義

阿部教授

儀礼とテクスト・フィールドワーク演習

阿部教授

—善徳寺虫干法会

阿部教授

儀礼とテクスト・フィールドワーク演習

阿部教授

—花祭

阿部教授

太子伝研究—太子絵伝絵解き実習

阿部教授

太子伝研究—太子伝を読む

阿部教授

日本思想史演習

阿部教授

宗教テクスト学実習—大須文庫調査研究

阿部教授

日本中世文化研究

阿部教授

日本語文化入門 (1) (2)

齋藤教授

日本語文化入門 (1) (2)

齋藤教授

日本語文化の諸問題 (1) (2)

齋藤教授

日本翻訳文化史の研究 (1) (2)

齋藤教授

宮地准教授

宮地准教授

近代日本と文学

飯田教授

日本語文法史

矢島正浩講師(非)

日本文学研究

飯田教授

日本語音節構造史研究

肥爪周二講師(非)

現代文学論

飯田教授

万葉集を読む

釘貫教授

現代日本のトランスナショナル文学

日比准教授

『雅言集覽』を読む

釘貫教授

文学と歴史叙述(1)(2)

日比准教授

『天草版平家物語』研究A・B

宮地准教授

近代と近代批判の諸相(1)(2)

齋藤教授・飯田教授

日本語研究上の諸問題A・B

釘貫教授・齋藤教授

日比准教授

日本精神史

阿部教授

〈学部〉

日本書誌学研究(1)(2)

塩村教授

儀礼とテクスト・フィールドワーク演習  
―「善徳寺虫干法会」を聴聞する

阿部教授

西鶴研究(1)(2)

塩村教授

儀礼とテクスト・フィールドワーク演習  
―「花祭」に参加する

阿部教授

王朝日記文学の諸問題

大井田准教授

太子伝を解く―絵解き実習

阿部教授

平安朝和漢比較文学研究

大井田准教授

太子伝を読む―『正法輪蔵』研究

阿部教授

明治期の文学作品と出版

甘露純規講師(非)

日本文化入門

阿部教授

中世の和歌と連歌

伊藤伸江講師(非)

日本語文化入門I・II

齋藤教授

梁塵秘抄の世界

植木朝子講師(非)

日本語文化入門I・II

齋藤教授

徒然草研究(1)(2)

塩村教授

日本翻訳文化史の研究I・II

齋藤教授

中世人の連想の世界(1)(2)

塩村教授

現代日本と文学

飯田教授

源氏物語演習(1)(2)

大井田准教授

現代日本のトランスナショナル文学

日比准教授

日本語史の研究

釘貫教授

釘貫教授

日本語学概論A・B

宮地准教授

日比准教授

近現代日本文学の分析

日比准教授

○平成二十六年春季大会

日時 七月十二日(土) 午後二時～五時

場所 名古屋大学文学部二三七講義室

シンポジウム「文学史上の『源氏物語』」

パネリスト・司会

大井田晴彦(名古屋大学准教授)

「平安前期物語から『源氏物語』へ—へ女はらから—」の話をめぐって—」

パネリスト

内藤英子(名古屋大学大学院博士後期課程修了)

「藤原為時の漢詩文と『源氏物語』—末摘花の物語を中心に—」

鈴木宏子(千葉大学教授)

「『源氏物語』と和歌—薫の歌をめぐって—」

総会

懇親会 午後六時～八時 グランピアット山手通店

○平成二十五年度卒業論文

芥川龍之介の児童文学研究

—『猿蟹合戦』を中心に—

許 景九

舞城王太郎研究

安藤成里人

『源氏物語』雲居雁論

石樽真衣

『平家物語』における装束・甲冑の描写について

岩本かおり

『源氏物語』六条御息所と光源氏

内田奈緒美

—そのすれ違いの様相—

樋口一葉『たけくらべ』論

—美登利の変貌について

日夏歌之介詩集『咒文』研究

「竹取物語」の光

「見らる」の出現と「見ゆ・見える」との対立

接尾辞「ばい」について

上代における国字の発達と使用形態の変遷

動作・状態の終了を表す動詞「果つ」についての考察

—本動詞・複合動詞用法の歴史的変遷—

「やがて」の用法の再検討

尾張方言の文末詞「が—」「がん」について

「英語動詞原形+する」「Eの形+する」の意味領域

小澤菜月

漆畑智絵

小川千穂

今村亜弥佳

鱈部希紅

の研究

小島聡一郎

「次第」の接続助詞的用法の考察

近藤正之

傾向を表す接尾辞「がち」について

佐藤瑠衣

「形容詞＋す／する」について

瀬古あゆみ

「さかる」と「はなる」について

園田未末

―同義語「かる」とともに―  
副詞「とても」の意味用法の変遷に関する研究

西尾曉音

動作の困難さを表す「―がたし／がたい」と「―にく

し／にくい」について

波多野由紀

時間を表す「サキ」の通時的変化の研究

原田佳菜子

○平成二十五年年度修士論文

『新釈諸国噺』研究

足立菜々

放屁文学の研究

菊間美帆

柏木物語の研究―『源氏物語』の和歌と表現―

所 敬子

『横笛草紙』研究

樋口千紘

「統投」の意味・用法の一般化

Sigit Sugiarto

中世以降の使役・受身表現が付随するサ変動詞

寺尾香里

現代日本語の「なかなか」考

白 重華

○平成二十五年四月から平成二十六年三月、次の方々が  
博士学位を取得された。

〈課程博士〉

軍記物語における救済と教訓

横山知恵

中世文学における音楽の体系

猪瀬千尋

澁澤龍彦文化圏の研究―サド裁判から押井守まで

水川敬章

『方丈記』の表現と享受

岡山高博

川端康成文学研究

―『雪国』の歴史的成立とその生成方法―

李 明喜

日本の国語教育における五十音図の役割

―シンハラ語ホーディヤとの比較対照―

ATTANAYAKE Priyanthika

戦時下における自由主義者の行動論理

―豊島与志雄、谷川徹三と中国との関わりから―

張 鈴

古代日本語文における現実領域／非現実領域に関する

研究

小出祥子

折口信夫の「性」と「政」―「折口像」の問題

永井真平

○本年四月一日現在、日本文学研究室には、学部二年生九名、三年生八名、四年生十一名、大学院前期課程三名、後期課程十一名、研究生・聴講生二名の計四十四名（内、留学生四名）、日本語学研究室には、学部二年生八名、三年生十二名、四年生八名、大学院前期課程七名、後期課程九名の計四十四名（内、留学生十六名）が在籍している。

○平成二十六年度秋季大会

日時 十二月十三日（土）午後二時～五時

場所 名古屋大学文学部二三七講義室

内容 『平家物語』『知章最期』における宗盛の役割

梶中愛美

「古代日本語における動詞連接「ウチー」の様

相」 阿部 裕

「働く／働かない」「私」が語るということ

― 絲山秋子の初期小説を手がかりに

徐 小雅

懇親会 午後六時～ グランピアット山手通店

○本誌への投稿をお待ちしています。投稿規定は次の通りです。

一、投稿資格 本学会員

二、枚数

出来上がり原稿にて十四頁（縦書きは

二十五字×二十二行×二段組／頁、横

書きは三十七字×三十行／頁）以内を

厳守。但、審査の過程で加筆の必要が

生じ、結果として掲載時に十四頁を超

過する場合もある。

三、原則としてメール添付による投稿とする。ただし、

メール添付に不都合がある場合、電子媒体の郵送に

よる投稿も可とする。手書き原稿の場合は事務局に

相談すること。

四、データはワード文書もしくはテキストファイル形

式を原則とする。

五、論文には二百字程度の要旨を添え、末尾に①論文

のキーワード（二～五語）、②英文タイトル、③英

文表記氏名、を付け加えること。論文と要旨等とは

別ファイルとする。

六、投稿に際しては、メール添付の論文ファイル・要

旨ファイルのほか、必ずプリントアウトした原稿と

要旨を各三部提出すること。特殊文字・罫線等や割

付けは、この原稿にしたがって版を組む。

七、審査はプリントアウトした完成原稿によって行う。

八、原稿の採否は編集委員による審査を経て運営委員会が決定する。

九、原稿の採否の問い合わせには応じない。

十、投稿原稿は返却しない。

付記、次号（一〇八号）の締切は二〇一五年五月七日です。

メール送付先 machiko@lit.nagoya-u.ac.jp

郵送先 〒四六四―八六〇―一

名古屋千種区不老町 名古屋大学文学部内

名古屋大学国語国文学会

○編集委員（五十音順）

阿部泰郎・飯田祐子・大井田晴彦・釘貫 亨・齋藤文  
俊・榊原千鶴・塩村 耕・日比嘉高・宮地朝子

○本号の刊行に際しての実務担当委員は以下の通り。

小川千穂・久野朋美・畠中愛美・羽山慎亮・眞野道子・  
森 翔大・川辺瑞絵